

FOLON

AGENCY OF IMAGINARY JOURNEYS

空想旅行案内人

ジャン＝ミッシェル・フォロン展



Press Release

1.11[土] — 2025. — 3.23[日]



名古屋市美術館
Nagoya City Art Museum



芸術と科学の社

FOLON

企 画 趣 旨

ジャン=ミッシェル・フォロン（Jean-Michel Folon 1934-2005）は、20世紀後半のベルギーを代表するアーティストのひとりです。ベルギーの巨匠マグリットの壁画に感銘を受け、美術の道に入ることを決意したフォロンは、21歳のころ、パリに渡ります。そして、作品を投稿したアメリカの有力誌『ザ・ニュー Yorker』『タイム』などで注目され、1960年代初頭にはそれらの表紙を飾るようになります。その後、グラフィック・デザインや版画、水彩画、文学作品の挿絵や舞台芸術など、多彩な才能を発揮し、世界各国で高く評価されました。

柔らかな色彩と軽やかなタッチで表現されたフォロンの作品は、見る人を想像の旅へ連れ出してくれます。そこに展開されるイメージは幻想的でありながらもどこか私たちの日常と繋がっており、世界の見方を変えてくれるようなユーモアとともに、環境破壊や人権など、現実には起きている問題への告発も潜んでいます。フォロンは、やさしく、そして厳しく、この世界と向き合うためのメッセージを残しているのです。

本展は、フォロンの初期のドローイングから水彩画、版画、ポスター、そして晩年の立体作品までを含めた約 230 点を紹介する、日本では 30 年ぶりの大回顧展です。フォロンの没後 20 年、そして彼が生前に設立したフォロン財団の 25 周年にあたるこの年に、今もなお豊かなメッセージを伝えてくれるフォロンの作品の魅力を、空想旅行をするような気分でめぐります。



フォロン、ミラノにて 1968 年
（撮影：コレット・ボルタル）

フォロン略歴

- 1934 年ベルギー（ブリュッセルのユックル地区）に生まれる
- 1950～1954 年 建築や工業デザインを学ぶ
- 1960 年～作品がアメリカの雑誌に掲載される
オリバッティ社のグラフィック・デザインを多数手がける
- 1969 年ニューヨークのギャラリーで初の個展開催
- 1970 年～各国の国際美術展への参加や、美術館で個展が開催される
- 1985 年日本（東京、大阪、神奈川ほか）で巡回展開催
- 1988 年アムネスティ・インターナショナルの依頼で『世界人権宣言』の挿絵を描く
- 1990 年メトロポリタン美術館で展覧会開催
- 1994 年この年から翌年にかけて日本（静岡、東京、京都）で巡回展開催
- 2000 年フォロン財団設立
- 2003 年 UNICEF 親善大使に任命される。レジオン・ドヌール勲章受章
- 2005 年モナコにて永眠
- 2022 年「フォロンの彫刻」展（京都）開催

展覧会のみどころ

1. フォロン没後 20 年、日本では 30 年ぶりの大回顧展

フォロン没後 20 年、そして彼が生前に設立したフォロン財団 25 周年にあたる 2025 年、フォロンの作品の魅力を見つめ直す、日本では 30 年ぶりの大回顧展です。

2. 空想旅行の気分でめぐるーリトル・ハット・マンとともに

フォロンが実際に使っていた名刺“FOLON: AGENCE DE VOYAGES IMAGINAIRES (フォロン：空想旅行エージェンシー)”をきっかけに、空想の旅にでかけるような気分で、作品をめぐるります。フォロンの作品にたびたび登場するリトル・ハット・マンを旅の道連れとして、フォロンのメッセージに耳を澄ませてみましょう。

3. 線のユーモア

ベルギーからパリに渡ったフォロンは、毎日ドローイング描いていたといいます。軽やかな線によって生み出されるユーモアたっぷりのイメージは、ありふれた日常に新しい気づきをもたらしてくれるでしょう。

4. 色彩の魅力

フォロン作品の大きな魅力は、その美しい色彩にあります。グラデーションやにじみなどを巧みに使い、詩情あふれる美しい世界が生み出されます。

5. 現代に響くメッセージ

作品の中に入っていきたいくなるほど幻想的な世界。しかし細部をよく見てみると、現実に対する厳しい告発が潜んでいます。没後 20 年が経った今でも、フォロンの残したメッセージは、力強さを失うことなく、私たちに訴えかけてきます。

展 示 構 成

プロローグ 旅のはじまり

フォロンが実際に使っていた名刺“FOLON: AGENCE DE VOYAGES IMAGINAIRES (フォロン：空想旅行エージェンシー)”が今回の旅のチケット。旅の始まりを告げる本章では、初期のころから描いていたドローイングや写真、彫刻などを展示し、日常に新たな視点を与えてくれる、フォロン流の世界の見方を紹介します。



《16 番目の考え》1996 年



名刺「フォロン 空想旅行エージェンシー」1990 年頃



《無題》制作年不詳



《男と出会ったブジューム》制作年不詳



《無題》制作年不詳



《いつもとちがう（雑誌『ザ・ニューヨーカー』表紙 原画）》

1976 年

第1章 あっち・こっち・どっち？

フォロンの作品にたびたび登場する矢印。旅先では実に頼りになる道案内の矢印ですが、フォロンが描く矢印は、あちこちへと飛び出し、旅人を迷宮に迷い込ませてしまいます。矢印に翻弄される街や人間を描くことは、フォロンにとって自立したアーティストとして進んでいこうとする強い意志表明でもありました。矢印に惑わされながらも、なんとか矢印を見極め、旅人ひとりひとりで選び取ること、そこから、空想の旅の第一歩が始まるのです。



《無題》1968 年頃



《都市のジャングル》制作年不詳

第2章 なにが聴こえる？

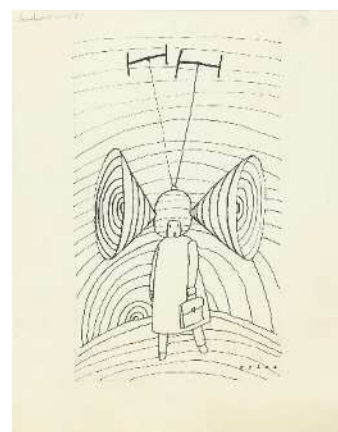
「耳を澄ませば、世界が動いている音が聴こえてきます」。そう語るフォロンの耳に届いていたのは、どのような音だったのでしょうか。軽やかなタッチと柔らかな色づかいで描き出されるのは、この世界で起こるさまざまなできごと。よく見てみると、あまり穏やかな場面ではありません。フォロンが作品に込めたメッセージに耳を澄ませてみましょう。



《煙》1971 年



《ごちそう》1983 年



《科学者》制作年不詳

第3章 なにを話そう？

見る人が絵と対話することを望んでいたフォロン。世界の「いま」を広くダイレクトに手段として、フォロンは企業や公共団体などの依頼で手がけた 600 以上のポスターを、絵画作品と同じくらい大切にしていました。本章ではそうしたポスターや、アムネスティ・インターナショナルの依頼をうけて制作した『世界人権宣言』の挿絵原画などから、さまざまな作品で見る人に語りかけてきたフォロンの魅力を紹介します。



《グリーンピース 深い深い問題》1988 年



《欧州は人種差別に反対する》制作年不詳



《『世界人権宣言』表紙 原画》1988 年

エピローグ つぎはどこへ行こう？

「私はいつも空を自由に飛んで、風や空と話してみたいと思っていますのです」と語っていたフォロンは、かろやかに世界を飛び回り、旅先での経験を創作のエネルギーとしていました。この世界の厳しい現実を静かに告発しつつも、同時にその美しさを表そうとしたフォロン。本展の旅の終わりは、彼が愛してやまなかった海と水平線を描いた水彩画や、旅先でのスケッチブック、メール・アートなどで締めくくります。想像力という翼で、地平線や水平線を越えていくフォロンの作品は、人生という旅へこぎ出す希望を、私たちにもたらしてくれるでしょう。



《対話》1975 年



《出帆》2001 年



《見知らぬ人》1991 年



《大天使》2003 年

開 催 概 要

- (1) 展覧会名 空想旅行案内人 ジャン＝ミッシェル・フォロン
FOLON: Agency of Imaginary Journeys
- (2) 会 期 2025 年 1 月 11 日 [土] – 3 月 23 日 [日] [62 日]
休館日：月曜日（1 月 13 日 [月・祝] と 2 月 24 日 [月・休] は開館）、
1 月 14 日 [火]、2 月 25 日 [火]
- (3) 会 場 名古屋市美術館 企画展示室 1・2
- (4) 主 催 名古屋市教育委員会・名古屋市美術館、中日新聞社、東海テレビ放送
フォロン財団（ベルギー）
- (5) 後 援 ベルギー王国大使館、JR 東海、名古屋市立小中学校 PTA 協議会
- (6) 特別協力 ベルギー王国フランス語共同体政府 国際交流振興庁(WBI)
- (7) 協 力 名古屋市交通局
- (8) 協 賛 損害保険ジャパン
- (9) 観覧料 一般 1,800 (1,600) 円、高大生 1000 (800) 円、中学生以下無料
() 内は通常前売・20 名以上の団体料金
- (10) 公式サイト <https://ourfolon.jp/>
- (11) 関連催事

【フォロンを追いかけてーTouching Folonー】

日時：1 月 11 日（土）午後 2 時～

講師：ステファニー・アルゲルロット氏（フォロン財団理事長）※逐次通訳

会場：名古屋市美術館 2 階講堂

定員：180 名（先着順、定員になり次第締切）

※入場無料。ただし聴講には本展の観覧券（観覧済みの半券も可）が必要。

【学芸員による解説会】

日時：1月26日（日）午後2時～3時

2月 8日（土）午後2時～3時

講師：久保田舞美（当館学芸員）

会場：名古屋市美術館2階講堂

定員：180名（先着順、定員になり次第締切）

※入場無料。ただし聴講には本展の観覧券（観覧済みの半券も可）が必要。

【ぬって にじんで カラフルな水彩グラデーションのせかい】

日時：2月23日（日・祝）

【午前】午前10時～11時45分 【午後】午後2時～3時45分

講師：山田雅哉氏（画家）

対象：小中学生

定員：各回30名

参加費：一人300円

持ち物：水彩絵の具セット（筆洗・パレット・筆・水彩絵の具）、ぞうきん

申込方法：名古屋市電子申請サービス <http://ttzk.graffer.jp/city-nagoya>

“名古屋市美術館”で検索、ご応募ください。

申込開始日：2025年1月17日（金）午前9時～

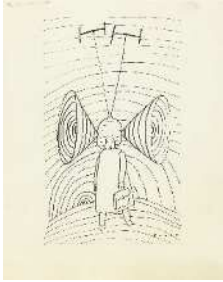
【トークフリーデー（常設展も実施）】

自由に気兼ねなくお話ししながら、展覧会を鑑賞いただけます。赤ちゃん、お子さま連れも大歓迎！※通常の開館日も、周りのお客様のご迷惑にならない範囲で会話をお楽しみいただけます。

日時：2月1日（土）・2日（日）

午前9時30分～午後5時まで（入場は閉館の30分前まで）事前申込不要

特別展「空想旅行案内人 ジャン＝ミッシェル・フォロン展」広報用画像一覧

画像			
① 	② 	③ 	④ 
⑤ 	⑥ 	⑦ 	⑧ 
⑨ 	⑩ 	⑪ 	⑫ 
⑬ 	⑭ 	⑮ 	⑯ 
⑰ 	⑱ 	⑲ 	⑳ 

①	《無題》制作年不詳、墨、グラフィート
②	《無題》制作年不詳、カラーインク
③	《いつもとちがう（雑誌『ザ・ニューヨーカー』表紙 原画）》、1976 年、水彩
④	《無題》1974 年、シルクスクリーン
⑤	《無題》1968 年頃、コラージュ、墨、カラーインク
⑥	《遠い国からあなたへ手紙をしたためています》1972 年、シルクスクリーン
⑦	《科学者》制作年不詳、墨
⑧	《グリーンピース 深い深い問題》1988 年、オフセット（原画：水彩）
⑨	《欧州は人種差別に反対する》制作年不詳、オフセット（原画：水彩）
⑩	《『世界人権宣言』表紙 原画》1988 年、水彩
⑪	《月世界旅行》1981 年、水彩
⑫	《見知らぬ人》1991 年、水彩
⑬	《大天使》2003 年、水彩
⑭	《対話》1975 年、水彩
⑮	《出帆》2001 年、ブロンズ
⑯	フォロン、ミラノにて 1968 年（撮影：コレット・ボルタル）
⑰	名刺「フォロン 空想旅行エージェンシー」1990 年頃
⑱	フォロン展キービジュアル 縦 1（見知らぬ人）※クレジット表記不要
⑲	フォロン展キービジュアル 縦 2（月世界旅行）※クレジット表記不要
⑳	フォロン展キービジュアル 横（遠い国から～）※クレジット表記不要

作品はすべてフォロン財団蔵

フォロン財団蔵 ©Fondation Folon, ADAGP/Paris, 2024-2025

「空想旅行案内人 ジャン＝ミッシェル・フォロン展」広報用画像の提供について

特別展「空想旅行案内人 ジャン＝ミッシェル・フォロン展」をご紹介いただく際の広報用画像を提供いたします。下記注意事項をご確認の上、専用フォームにより申請してください。

広報用画像提供依頼専用フォームはこちら
→<https://logoform.jp/form/mX9C/779899>



● 展覧会をご紹介いただく場合

・本展をご紹介いただく場合、記事・番組内容について情報確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で校正を下記問い合わせ先までメールにてお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方では負いかねます。

・掲載・放送後は、掲載紙・誌、または同録データもしくは DVD 等を 1 部お送りくださいますようお願いいたします。WEB サイトの場合は、掲載時に URL をお知らせください。

● 画像掲載について

・画像の使用は本展を紹介する場合に限らせていただきます。展覧会終了後の放送・掲載はお断りします。また本展会期中であっても、再放送や転載をされる場合はご連絡ください。

・ご使用の際は、指定のキャプション表記をお願いします。画材の表記についてはスペースがない場合は省略可とします。

・画像はすべて全図で使用してください。トリミング、縦横比の変更、文字や他のイメージを重ねることはできません。

・以上の点にご留意いただけない場合、所有者などとの間にトラブルが生じることがあります。その場合、主催者側では一切責任を負いかねますのでご注意ください。

・画像は原則データでの送付とさせていただきます。必ずメールアドレスをご記載ください。

● 読者プレゼントの提供について

・本展をご紹介いただく場合、ご希望があれば本展招待券を貴媒体読者プレゼント用に提供します(5 組 10 名様まで)。専用フォームにてお申し込みください。

● 展覧会の取材・撮影について

・本展の取材・撮影をご希望の場合は事前にご連絡ください。ご連絡がない場合、お断りすることがあります。

【広報に関するお問い合わせ】

名古屋市美術館（広報担当：魚住）

〒460-0008 名古屋市中区栄 2-17-25 TEL：052-212-0001 FAX：052-212-0005

メール：ncam_gakugei@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

展覧会紹介文例

【50 文字程度】

ジャン＝ミッシェル・フォロン（1934-2005）の、ドローイング・水彩画・ポスター・彫刻など約 230 点を紹介する、日本では 30 年ぶりの大回顧展。

【100 文字程度】 20 世紀後半のベルギーを代表するアーティストのひとり、ジャン＝ミッシェル・フォロン（1934-2005）。彼の初期のドローイングや水彩画、版画、ポスター、立体作品など約 230 点を紹介する、日本では 30 年ぶりの大回顧展。

【200 文字程度】

20 世紀後半のベルギーを代表するアーティストのひとり、ジャン＝ミッシェル・フォロン（1934-2005）。彼の初期のドローイングや水彩画、版画、ポスター、立体作品など約 230 点を紹介する、日本では 30 年ぶりの大回顧展。フォロンの名刺「AGENCE DE VOYAGES IMAGINAIRES（空想旅行エージェンシー）」をきっかけに、空想旅行をするような気分で作品をめぐりながら、フォロンが残した、やさしく、そして厳しいメッセージを見つめ直す。